

2020年8月4日

日興アセットマネジメント株式会社

おかげさまで設定から1周年を迎えました。

イノベティブ・フューチャー (愛称)

パフォーマンスの振り返りと今後の見通し

Time, not timing

世界経済の成長の原動力となり得るイノベーション関連銘柄を主要な投資対象とする当ファンドは、2019年6月28日の設定後、約1年が経過し、純資産総額は5,000億円を突破(2020年7月9日時点)しました。

本資料では、当ファンドの設定来の運用状況や市場環境を振り返るとともに、足元のパフォーマンスの要因や今後の見通しなどについて、当ファンドの主な投資対象である外国投資法人の運用に助言を行なうアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー(ARK)の見解をもとに、ご紹介します。

当ファンドは、投資先企業を厳選し、企業規模が小さい段階でも投資を行なうことから、ポートフォリオの組入銘柄数は少なく、中小型株の比率が高めとなっています。従って、当ファンドの基準価額の値動き(値振れ)は、市場平均よりも相対的に大きくなる傾向があります。実際、当ファンドの基準価額は、設定以降、幾度か大きく下落する結果となりましたが、いずれの局面でも、その後大きく反発しました。



- 基準価額は信託報酬等(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。世界株式はMSCI ACワールド指数(米ドルベース、トータルリターン)の値です。なお、世界株式は、当ファンドの基準価額の算出方法に合わせ、当ファンドの前営業日の世界株式の値を円換算して算出した値を掲載しています。なお、上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。
- 信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

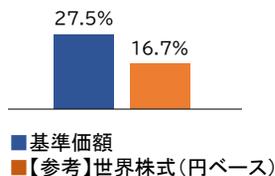
2020年6月末までの投資環境と 当ファンドのパフォーマンス

ここでは、設定来の投資環境とパフォーマンスについて、設定日からコロナショック前の高値(2020年2月21日)までの期間、コロナショック前の高値からコロナショックによる安値(2020年3月19日)までの期間、その後の回復期間に分けて、ご説明します。

期間A (2019年6月28日(設定日)～2020年2月21日)

当ファンドは、運用開始以降、投資先企業の一部において、冴えない業績見通しが出たことや、資金調達の発表が行われたことなどが嫌気され、2019年夏にかけて軟調な推移を余儀なくされました。その後、米中通商問題の進展や米国経済の堅調さから投資家のリスク許容度が改善し、2020年2月中旬まで堅調な推移となりました。

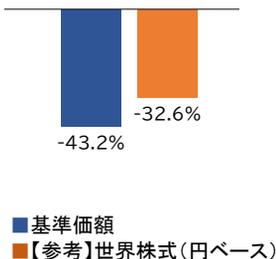
騰落率



期間B (2020年2月21日～3月19日)

期間C (2020年3月19日～6月30日)

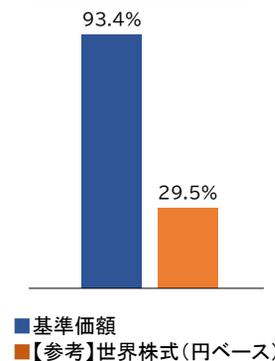
騰落率



2020年2月下旬以降、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴ない、経済活動の低迷が見込まれ、世界経済の成長鈍化が危惧されたことや原油価格の急落により、株式市場が大きく下落し、当ファンドも値下がりました。

世界各国で経済対策が打たれたことに加え、ワクチン開発への期待などから株式市場は落ち着きを取り戻しました。加えて、当ファンドが注目していた非接触型の新しいサービスなどへの注目が高まり、当ファンドのパフォーマンスは大きく改善しました。

騰落率



- 基準価額は信託報酬等(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。世界株式はMSCI ACワールド指数(米ドルベース、トータルリターン)の値です。なお、世界株式は、当ファンドの基準価額の算出方法に合わせ、当ファンドの前営業日の世界株式の値を円換算して算出した値を掲載しています。なお、上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。 ● 信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

銘柄別パフォーマンス寄与度①

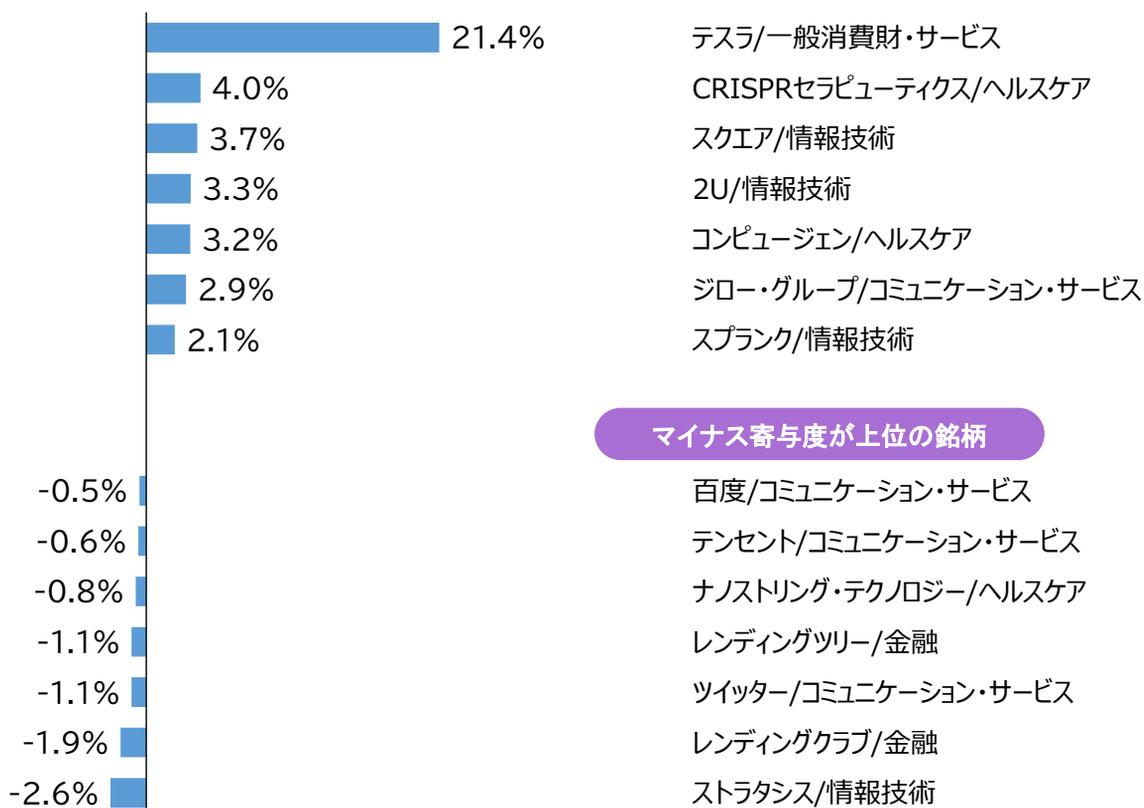
2019年6月28日（設定日）～2020年6月末（+39.9%）の分析

個別銘柄のパフォーマンス寄与度からは、当該期間に最もプラス寄与した銘柄（テスラ）の寄与が、全体の半分以上を占めていたことがわかります。また、コロナショック時に値下がりの銘柄は多くあったと思われるものの、その後の回復などもあり、マイナス寄与となった銘柄は少なく、全体的に堅調であったことがわかります。

プラス寄与度が上位の銘柄である、テスラやCRISPRセラピューティクス、スクエアなどは、当該期間中、組入上位にあった銘柄であり、組入比率の高さも寄与度の大きさにつながったことがわかります。

銘柄別寄与度

（上位/下位、7銘柄）



プラス寄与度が上位の銘柄

マイナス寄与度が上位の銘柄

- 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 寄与度は、上記期間中の基準価額の変動において、各銘柄の変動がどれだけ影響しているかを示したものです。
- 各銘柄の日次の保有比率および株価を基に為替変動などを考慮して計算した概算値であり、実際の取引価格やファンドが負担するコスト（売買手数料や信託報酬など）などは考慮されていません。なお、当ファンドにおける各銘柄の保有期間は異なります。
- 寄与度は、実際の基準価額の騰落に対する寄与度を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

銘柄別パフォーマンス寄与度②

2020年3月19日～6月30日（+93.4%）の分析

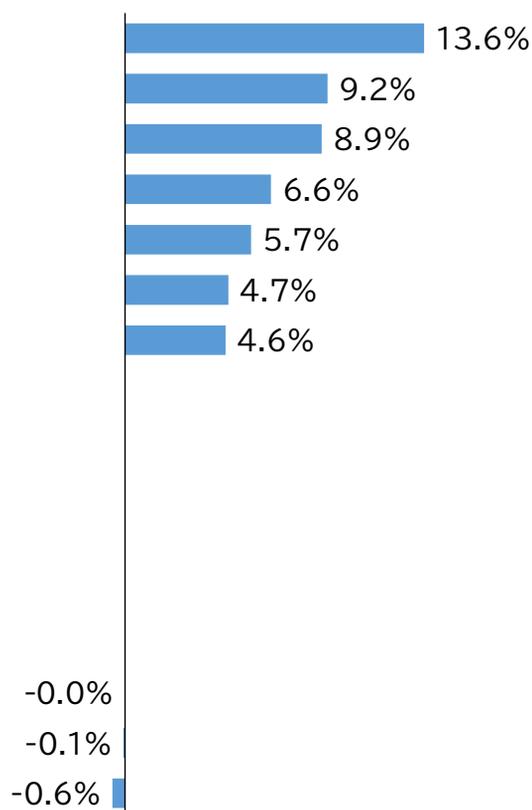
個別銘柄のパフォーマンス寄与度からは、当該期間にマイナス寄与した銘柄が数銘柄に留まっており、ほとんどの銘柄がプラス寄与したことがわかります。

また、コロナショックを受け、治癒薬やワクチン開発に関連した銘柄や、需要が急増した非接触型サービスなどをてがける銘柄のプラス寄与度が高くなったことがわかります。

次ページ以降では、プラス寄与が上位の銘柄のうち、2020年6月末現在の組入上位銘柄をいくつかご紹介いたします。

銘柄別寄与度

（上位/下位、7銘柄）



プラス寄与度が上位の銘柄

テスラ/一般消費財・サービス
スクエア/情報技術
インビテ/ヘルスケア
2U/情報技術
イルミナ/ヘルスケア
ロク/コミュニケーション・サービス
CRISPRセラピューティクス/ヘルスケア

マイナス寄与した銘柄

※マイナス寄与は以下の3銘柄のみです

アイオワンス・バイオセラピューティクス/ヘルスケア
スラック/情報技術
レンディングクラブ/金融

- 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 寄与度は、上記期間中の基準価額の変動において、各銘柄の変動がどれだけ影響しているかを示したものです。
- 各銘柄の日次の保有比率および株価を基に為替変動などを考慮して計算した概算値であり、実際の取引価格やファンドが負担するコスト(売買手数料や信託報酬など)などは考慮されていません。なお、当ファンドにおける各銘柄の保有期間は異なります。
- 寄与度は、実際の基準価額の騰落に対する寄与度を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

注目企業のご紹介

ここでは、当ファンドの実質的な保有銘柄のうち代表的な企業について、その事業内容や注目点についてご紹介します。



テスラ (米国)

世界有数のEV(電気自動車)メーカー

※写真はイメージです

【組入理由】

- EV(電気自動車)メーカーとしての高い評価
- テスラネットワーク(自動運転タクシーネットワーク)構想への期待

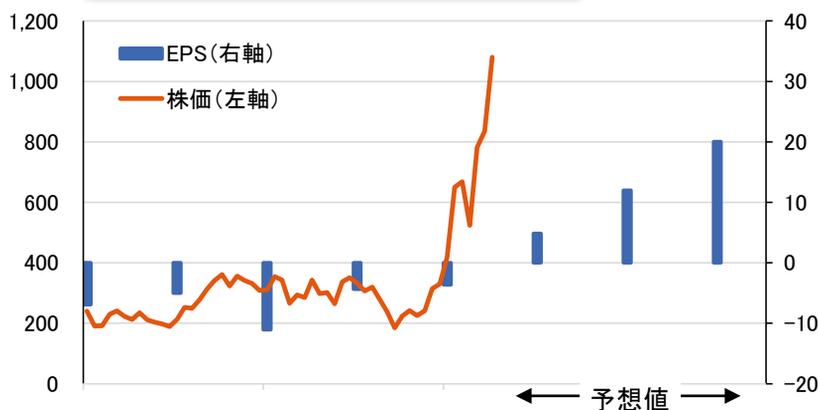
【注目のニュース】

- 2020年1-3月期は同四半期では初の黒字となり、3四半期連続での黒字を達成した。また、売上高も60億米ドルといずれも市場予想を上回った。
- 新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、3月から生産を停止していたカリフォルニア州の工場の再開が公衆衛生当局と合意に達した。

【今後の見通し】

- イーロン・マスクCEOは決算発表の場で、そう遠くない将来、年間2,000万台の生産を目指すと発言しました。
- ARKでは、年間2,000万台の生産が実現し、平均販売価格が49,000米ドルに留まる場合、売上総利益(粗利)率は30%を上回ると試算しています。

株価とEPSの推移 (単位: 米ドル)



売上高の推移 (単位: 億米ドル)



- 当ファンドの運用期間は2019年6月以降です。なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。
- EPS(1株当たり純利益)および売上高は決算期ベース、また、2020年12月、2021年12月、2022年12月は、2020年7月時点の市場予想値です。
- EPSと売上高は2015年~2022年、株価(月末値)は2015年12月から2020年6月。
- 当ページの銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 当ページは、2020年6月末時点の組入上位について、ARKからのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 当ページは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

注目企業のご紹介

ここでは、当ファンドの実質的な保有銘柄のうち代表的な企業について、その事業内容や注目点についてご紹介します。



スクエア (米国)

米国の決済サービス大手で、決済システムを軸に、融資サービスなども手がける

※写真はイメージです

【組入理由】

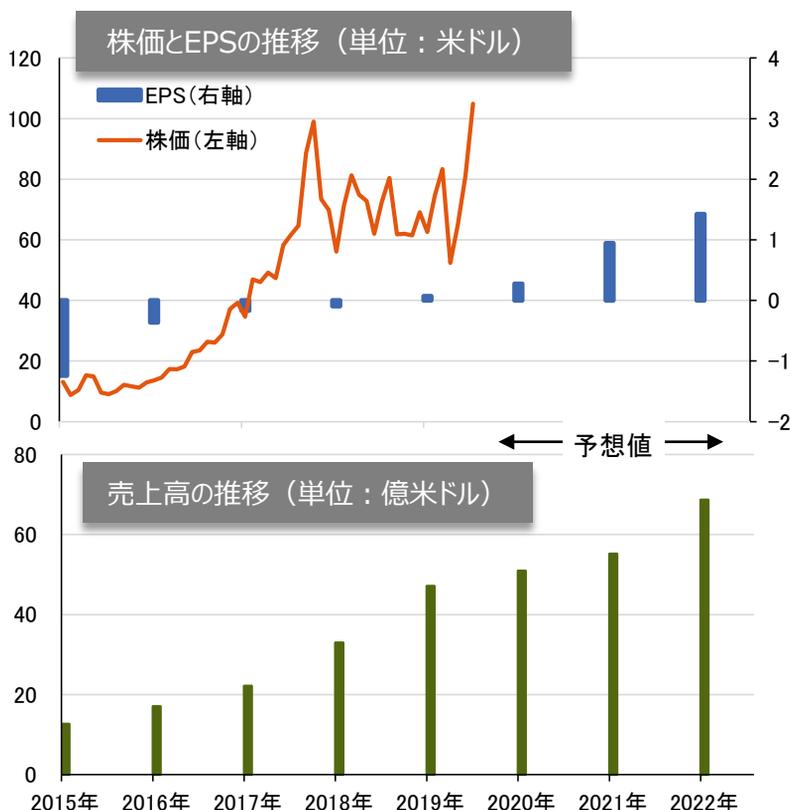
- スクエア・リーダー(クレジットカード決済システム)の販売が順調
- 融資サービス「スクエア・キャピタル」の成長ポテンシャルおよびデジタル・ウォレットのサービス利用者急拡大

【注目のニュース】

- 2020年3月、条件付きながら、銀行免許(中小企業向け融資、預金商品の提供など)を獲得。
- 米中小企業庁の給与保護プログラム(PPP: 中小企業を返済免除条件付き融資で支援する制度)への参加が承認された。

【今後の見通し】

- ARKでは、同社は銀行口座を保有しない人々を取り込むと共に、サービスにビットコインなどの暗号資産や株式の売買機能といった新たな機能を徐々に加え、総合的なデジタル・ウォレットのサービス事業者として成長を続けると想定しています。



- 当ファンドの運用期間は2019年6月以降です。なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。
- EPS(1株当たり純利益)および売上高は決算期ベース、また、2020年12月、2021年12月、2022年12月は、2020年7月時点の市場予想値です。
- EPSと売上高は2015年～2022年、株価(月末値)は2015年12月から2020年6月。
- 当ページの銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 当ページは、2020年6月末時点の組入上位について、ARKからのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 当ページは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

注目企業のご紹介

ここでは、当ファンドの実質的な保有銘柄のうち代表的な企業について、その事業内容や注目点についてご紹介します。



インビテ (米国)

遺伝子検査、分子診断サービスの大手

※写真はイメージです

【組入理由】

- 質の高い遺伝子検査サービスに注目
 - 同社が手がける、今後の医療の在り方を変え得る分子診断サービス*の巨大な成長ポテンシャル
- * 現在、疾患特定のために行なわれる数多くの検査を、血液などの分子検査で行なうサービス

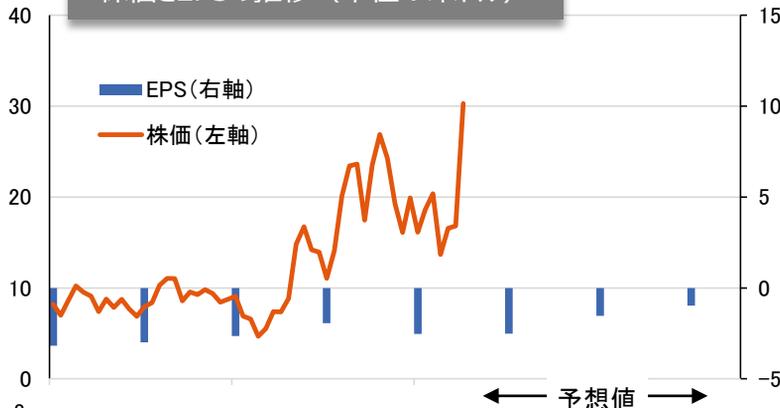
【注目のニュース】

- 2019年11月、臨床検査プラットフォーム「インビテ・ディスカバー」を発表（同プラットフォームは、アップルウォッチを通じて生体認証データを入手し、病気の遺伝的要因をより深く理解するために臨床研究で用いられます。）

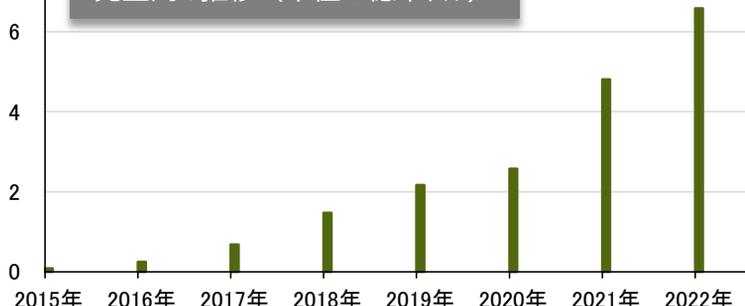
【今後の見通し】

- ARKでは、同社の分子診断サービスを使った診断が標準的な診断方法となる可能性があると考えており、今後、同社の業績のさらなる拡大を見込んでいます。

株価とEPSの推移 (単位: 米ドル)



売上高の推移 (単位: 億米ドル)



- 当ファンドの運用期間は2019年6月以降です。なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。
- EPS(1株当たり純利益)および売上高は決算期ベース、また、2020年12月、2021年12月、2022年12月は、2020年7月時点の市場予想値です。
- EPSと売上高は2015年～2022年、株価(月末値)は2015年12月から2020年6月。
- 当ページの銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 当ページは、2020年6月末時点の組入上位について、ARKからのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 当ページは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

注目企業のご紹介

ここでは、当ファンドの実質的な保有銘柄のうち代表的な企業について、その事業内容や注目点についてご紹介します。



2U(トゥーユー) (米国)

大学教授と連携し、オンラインで
大学院課程の授業を提供

※写真はイメージです

【組入理由】

- トップクラスの大学の教授と連携し、生徒のためのオンライン教科履修を可能としている点
- また米国で、労働者不足の補完のために、企業向けの短期講座と新人研修プログラムの提供を計画している点

【注目のニュース】

- 2020年1-3月期の業績は堅調であったものの、同時に発表された株式への転換権が付与された私募債の発行による資金調達、将来の株式転換による希薄化懸念から嫌気された。

【今後の見通し】

- ARKでは、同社は、大学のオンライン教育市場での立ち位置をより優位にするほか、企業向けの教育および新人研修プログラムを提供する計画を持っています。



- 当ファンドの運用期間は2019年6月以降です。なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。
- EPS(1株当たり純利益)および売上高は決算期ベース、また、2020年12月、2021年12月、2022年12月は、2020年7月時点の市場予想値です。
- EPSと売上高は2015年～2022年、株価(月末値)は2015年12月から2020年6月。
- 当ページの銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 当ページは、2020年6月末時点の組入上位について、ARKからのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 当ページは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

注目企業のご紹介

ここでは、当ファンドの実質的な保有銘柄のうち代表的な企業について、その事業内容や注目点についてご紹介します。



イルミナ (米国)

ゲノム解析装置の最大手メーカー

※写真はイメージです

【組入理由】

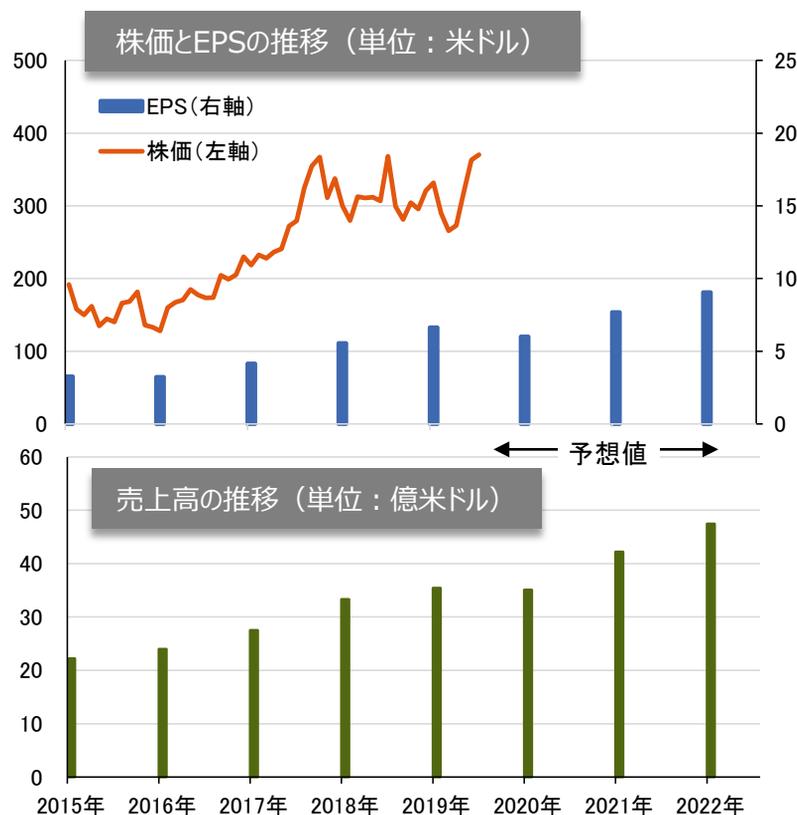
- ゲノム解析装置(次世代シーケンサー)市場で圧倒的な地位を誇る点
- ゲノム解析件数の急増に伴う業績拡大期待

【注目のニュース】

- 新型コロナウイルス対策に必要な治癒薬とワクチン開発において、重要なカギを握る新型コロナウイルスの遺伝子と分子構造の解析には、同社などが提供する次世代シーケンサーが必要不可欠で注目される。

【今後の見通し】

- ARKでは、近年ヒト1人当たりのゲノム解析コストは数百米ドル程度まで下がると予想しています。
- こうしたゲノム解析コストの低減により、ヘルスケアやゲノム診断薬分野の新たな需要が生み出されることで、同社の業績のさらなる拡大を見込んでいます。



- 当ファンドの運用期間は2019年6月以降です。なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。
- EPS(1株当たり純利益)および売上高は決算期ベース、また、2020年12月、2021年12月、2022年12月は、2020年7月時点の市場予想値です。
- EPSと売上高は2015年～2022年、株価(月末値)は2015年12月から2020年6月。
- 当ページの銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 当ページは、2020年6月末時点の組入上位について、ARKからのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 当ページは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

注目企業のご紹介

ここでは、当ファンドの実質的な保有銘柄のうち代表的な企業について、その事業内容や注目点についてご紹介します。



ロク (米国)

ビデオストリーミング市場の主要プレーヤー

※写真はイメージです

【組入理由】

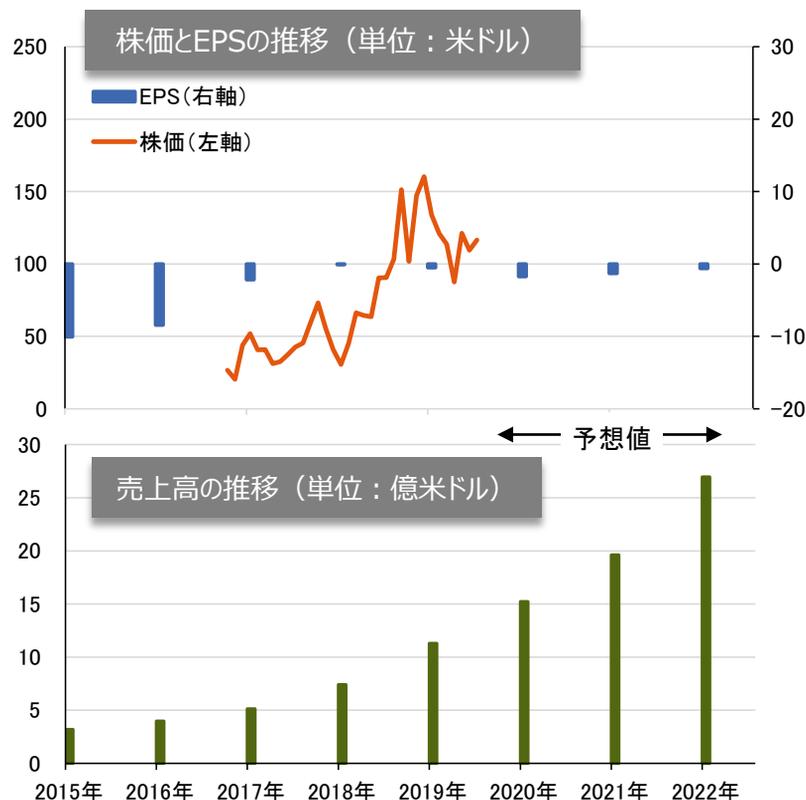
- 独自の家庭用ビデオストリーミング端末の販売やテレビのプラットフォームとなるオペレーティングシステム(OS)を提供する事業である点
- ビデオストリーミング用の機器の設置数が最大手の一角である同社は、テレビ視聴用OSの供給会社になり得ると考える点

【注目のニュース】

- 2020年5月、1-3月期決算を発表。売上高は予想を上回り、アクティブ・アカウント(稼働会員数)も3,980万人まで急拡大するなど、外出制限拡大などにより、テレビ視聴のスタイルがストリーミングへシフトしていることを示した。

【今後の見通し】

- ARKでは、今後もテレビ視聴のスタイルのビデオストリーミングへの移行が進むと考えており、すでに多くのユーザを抱える同社は、提供する無料動画からの広告収入による業績のさらなる拡大を見込んでいます。



- 当ファンドの運用期間は2019年6月以降です。なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。
- EPS(1株当たり純利益)および売上高は決算期ベース、また、2020年12月、2021年12月、2022年12月は、2020年7月時点の市場予想値です。
- EPSと売上高は2015年~2022年、株価(月末値)は2017年9月から2020年6月。
- 当ページの銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 当ページは、2020年6月末時点の組入上位について、ARKからのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 当ページは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

注目企業のご紹介

ここでは、当ファンドの実質的な保有銘柄のうち代表的な企業について、その事業内容や注目点についてご紹介します。



CRISPRセラピューティクス

ゲノム編集技術「CRISPR/Cas9」に基づく (スイス)
血液疾患の治療薬の研究・開発で先行

※写真はイメージです

【組入理由】

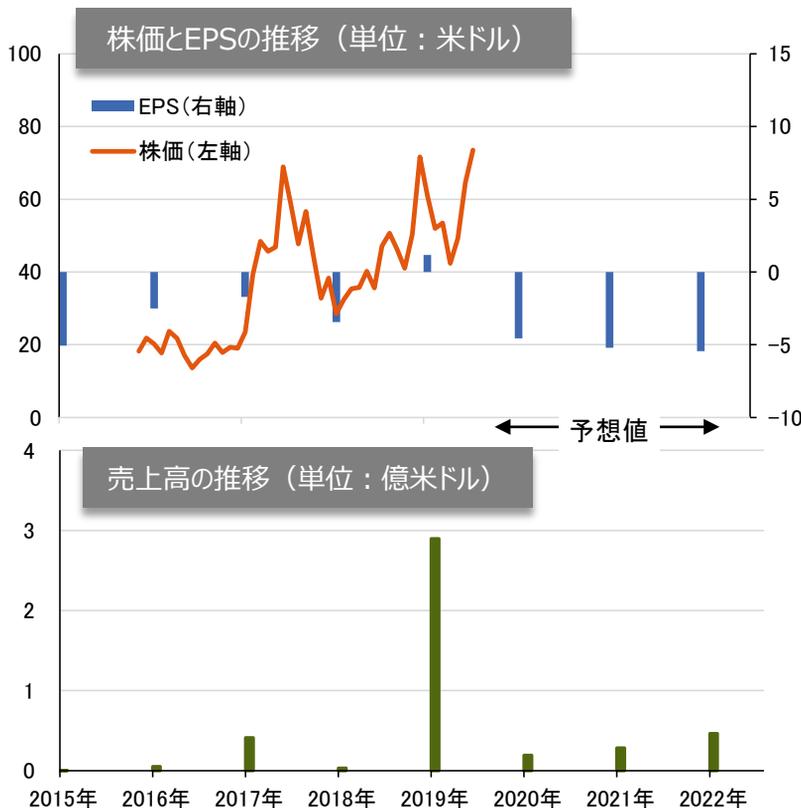
- 画期的なゲノム編集技術「CRISPR/Cas9(クリスパー/キャスナイン)」の基礎的特許ライセンスを保有する3社のうちの1社。

【注目のニュース】

- 2019年11月、同社が開発を進めているCRISPR/Cas9技術を使った血液疾患向け治療薬「CTX001」のヒトを対象とした初の臨床試験において、良好な結果が発表されました。
- 主要なパートナー企業であるバーテックスへCRISPR/Cas9のライセンスを供与したことで、商品ごとに最大約4億米ドルのマイルストーン収入(開発の進捗状況に応じて支払われる報酬)、および将来のライセンス収入の獲得が見込まれます。

【今後の見通し】

- ARKでは、迅速な意思決定や高い技術力に加え、血液疾患の研究分野における先駆者としての優位性などから、CRISPR/Cas9技術を使った、患者の体外で行なう遺伝子治療において同社が先行すると見込んでいます。

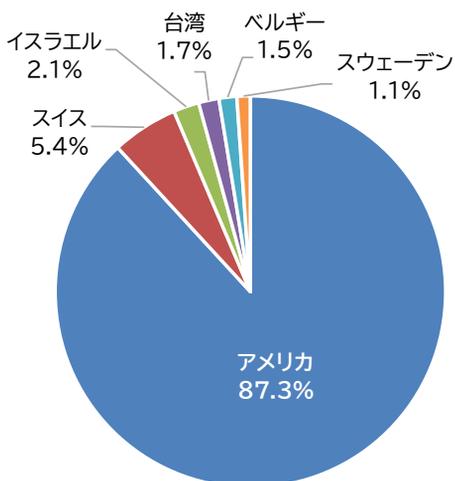


- 当ファンドの運用期間は2019年6月以降です。なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。
- EPS(1株当たり純利益)および売上高は決算期ベース、また、2020年12月、2021年12月、2022年12月は、2020年7月時点の市場予想値です。
- EPSと売上高は2015年~2022年、株価(月末値)は2016年10月から2020年6月。
- 当ページの銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 当ページは、2020年6月末時点の組入上位について、ARKからのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 当ページは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

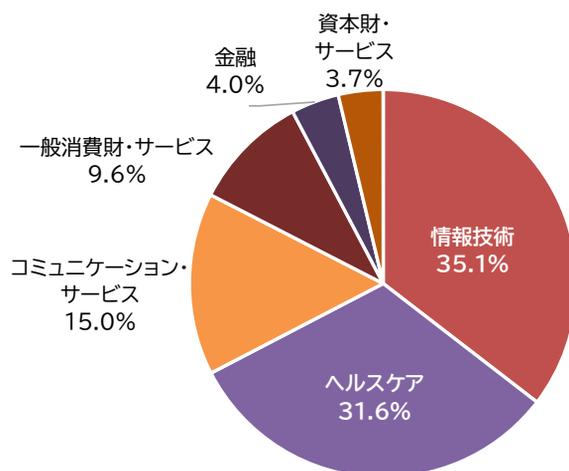
ポートフォリオの状況

2020年6月末現在

国・地域別組入比率



業種別組入比率



※ 記載項目のほかにその他などがある関係で合計が100%とならない場合があります。

組入上位10銘柄

(銘柄数46銘柄)

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	比率
1	Tesla Inc テスラ	米ドル	アメリカ	一般消費財・サービス	8.4%
2	Square, Inc. Class A スクエア	米ドル	アメリカ	情報技術	7.6%
3	Invitae Corp. インビテ	米ドル	アメリカ	ヘルスケア	7.3%
4	CRISPR Therapeutics AG CRISPRセラピューティクス	米ドル	スイス	ヘルスケア	5.4%
5	Roku, Inc. Class A ロク	米ドル	アメリカ	コミュニケーション・サービス	5.0%
6	2U, Inc. トゥーユー	米ドル	アメリカ	情報技術	4.8%
7	Lendingtree Inc レンディングツリー	米ドル	アメリカ	金融	3.5%
8	Zillow Group, Inc. Class C ジロー・グループ	米ドル	アメリカ	コミュニケーション・サービス	3.5%
9	Illumina, Inc. イルミナ	米ドル	アメリカ	ヘルスケア	3.5%
10	Proto Labs, Inc. プロトラブズ	米ドル	アメリカ	資本財・サービス	3.3%

規模別構成比率

時価総額	比率
超大型株 (500億米ドル以上)	14.5%
大型株 (100億米ドル以上 500億米ドル未満)	28.8%
中型株 (20億米ドル以上 100億米ドル未満)	37.9%
小型株 (20億米ドル未満)	17.7%

※ 記載項目のほかにその他などがある関係で合計が100%とならない場合があります。

※ 上記は、当ファンドの主要投資対象であるルクセンブルグ籍円建外国投資法人「日興AM ARKディスラプティブ・イノベーション・ファンドクラスA」の情報です。また、各種比率は当外国投資法人の純資産総額比です。

※ 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

世界的に動揺が続く中、ARKがお伝えしたいこと

当ファンドの主要投資対象である外国投資法人の運用に助言を行なう、ARKの見方をお伝えします



Catherine D. Wood

(創業者、CEO/CIO(最高投資責任者))

市場が荒れる中でもイノベーションは普及し続ける

当ファンドの設定から早いもので一年が過ぎました。足元、市場環境は大きく変動し、当ファンドのパフォーマンスも一時的に大きく悪化することとなりました。このような中でも、私たちの調査・運用手法に信頼をお寄せいただき、投資を継続していただいたことに感謝いたします。

改めて皆様に、「激動の時代にこそイノベーションが活気づく」という私の考えをお伝えしたいと思います。私は40年以上にわたる金融機関での業務の中で、景気後退を含む10以上の危機を経験しましたが、その都度、急速な人々の行動変化を見てきました。

こうした行動変化、例えばリーマン・ショックを含む世界金融危機時に起きた、企業におけるソフトウェアの利用形態の製品購入から従量制サービスへの変化は、事業のメインプレイヤーを大きく変えました。**イノベーションは激動の時代にこそ普及する**のです。

皆様も経験された、新型コロナウイルス感染拡大を契機として急激に起きたデジタル化の進展による便利な社会の出現、中でもリモートワークやストリーミングサービス、キャッシュレスなどに代表される非接触型サービスは、一時的な代替手段ではなく、これまでの行動スタイルを置き換える破壊的なイノベーションであり、人々がこれからもサービスを幅広く受け入れることで、大きく成長を続けるサービスであるとARKは考えています。

中長期の目線でイノベーションとお付き合い頂ければ幸いです

これまでお話したように、新たなイノベーションの普及による企業や消費者の行動スタイルの変化は、関連企業に大きな成長機会をもたらすと考えています。ARKは破壊的イノベーションへの投資において、足元の状況ではなく数年先の姿を見ており、破壊的イノベーションの普及は道半ばであり、ファンドの現在のパフォーマンスはあくまでも途中経過であると考えています。

これからも、**短期的な値動きに一喜一憂せず、少し先を見据えた中長期の投資対象**として、イノベーションをとらえていただければ幸いです。

- 当ページは、ARKからのコメントや各種公開情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。



ファンドの特色

1 主に、世界的の上場株式の中から、破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業の株式*を実質的な投資対象とします。

* 預託証券を含みます。

- イノベーションの普及度合いや市場での評価は時間と共に変化することから、投資対象とするイノベーションは固定せず、随時見直しを行いません。
- 外貨建資産への投資にあたっては、原則として、為替ヘッジは行いません。

2 個別銘柄の選定において、アーク社の調査力を活用します。

- イノベーションにフォーカスした調査に強みを持つ、米国のアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー（アーク社）からの助言をもとに、日興アセットマネジメントアメリカズ・インクが当ファンドの主な投資対象であるルクセンブルグ籍円建外国投資法人「日興AM ARKディストラティブ・イノベーション・ファンド クラスA」の運用を行いません。

3 年1回、決算を行いません。

- 毎年5月20日（休業日の場合は翌営業日）を決算日とします。

※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

- 市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行えない場合があります。

お申込みに際しての留意事項①

● リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様へ帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

- 株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- 新興国の株式は、先進国の株式に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。
- 公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

【流動性リスク】

- 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- 新興国の株式は、先進国の株式に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

（次ページに続く）



お申込みに際しての留意事項②

(前ページから続く)

リスク情報(続き)

【信用リスク】

- 投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- 公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト(債務不履行)が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

【為替変動リスク】

- 外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- 一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

【カントリー・リスク】

- 投資対象国における非常事態など(金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など)を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- 一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

●その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

お申込みメモ（みずほ証券でお申込みの場合）

商品分類	追加型投信／内外／株式	
購入単位	（分配金受取コース）	1万口以上1口単位、1万円以上1円単位
	（分配金再投資コース）	1万円以上1円単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額	
信託期間	2029年5月21日まで（2019年6月28日設定）	
決算日	毎年5月20日（休業日の場合は翌営業日）	
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日またはルクセンブルクの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。	
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して8営業日目からお支払いします。	

手数料等の概要（みずほ証券でお申込みの場合）

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時手数料は購入金額に応じて、以下の手数料率を購入価額に乗じた額になります。	
	5,000万円未満……………	3.3% (税抜3.0%)
	5,000万円以上1億円未満……………	1.65% (税抜1.5%)
	1億円以上……………	0.55% (税抜0.5%)
	※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。	
換金手数料	ありません。	
信託財産留保額	ありません。	

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対し年率1.658% (税抜1.58%)程度が実質的な信託報酬となります。 信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率0.858% (税抜0.78%)、投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.8%程度となります。	
その他の費用・手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、 <u>ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額</u> が信託財産から支払われます。 組入る有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。	

※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 [ホームページ] www.nikkoam.com/ [コールセンター] 0120-25-1404 (午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	商号等: みずほ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人金融先物取引業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

nikko am
Nikko Asset Management